

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 国語】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業にはたいへん積極的で、分かるようになりたいという意欲をもっている。</li><li>・小学校で学習したことが定着していない場合がある。</li><li>・語彙が狭く、言葉が表すイメージの共有に課題が見られる。</li><li>・論理的な思考が苦手で、登場人物の心情を汲み取る力が付いていない。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・宿題や提出物への取り組む姿勢は概ねしっかりと行えるが、少しずつ個人差が生まれてきている。
- ・物語や詩など叙情的な読み取りと比較し、説明的文章の読解が苦手である。また、「書く」ことに苦手意識を持っている傾向が多い。
- ・文法理解については苦手意識が強く、授業中は理解していても、自宅学習で復習をあまり行わないことから、取り組みが消極的である。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

	具体的な改善策
生徒同士学び合う 機会を増やす	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループワーク後のフィードバックの時間を確保し、生徒同士で学び合う機会をもつ。</li><li>・文法理解についても同様にグループワークを取り入れる。</li></ul>
基礎学力の育成	<ul style="list-style-type: none"><li>・なかなか漢字を覚えられない生徒のため、スモールステップによる段階的な漢字テストを継続して行う。</li><li>・書く力を養うために、要約や短作文の練習を繰り返し行う。また、書くことに苦手意識をもたせないために創作などの活動も取り入れる。</li></ul>
振り返りの充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎時間どのようなことを学習したか振り返り、自分の分かったこと、分からなかったことを自覚するために、ワークシート等を活用する。</li><li>・授業の始めには、毎回前時の振り返りを行う。</li></ul>
ICT の活用	<ul style="list-style-type: none"><li>・大型テレビで補助教材や資料を視聴させるなど、ICT 機器の効果的な利用で、理解の不足を補う工夫をする。</li></ul>

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 社会】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>発言も多く意欲的に学習に取り組む生徒が多い。ノートやワークシートなども、生徒が工夫をし、それぞれにとって見やすくまとめることができる生徒が多くなった。</li><li>思考・判断・表現、技能の向上を目指す指導により、様々な資料（統計グラフ、写真、絵、地図、年表など）の活用から、必要な情報を取り出し、まとめ、表現する能力が伸びている。</li><li>基礎、基本の知識の定着には差ができてはじめている。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い、「考える力」をさらに育成する必要がある。
- 家庭学習の習慣を定着させ、内容、質をより充実させる必要がある。
- 時事的な社会的事象に対し、より関心を高める必要がある。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
「考える力」の育成	<ul style="list-style-type: none"><li>学習した内容を「説明」し、「まとめる」活動を取り入れた授業を進める。また、複数の資料（年表・地図・グラフ・写真など）等を活用し、何が読み取れるなどを十分に考え、それをさまざまな方法で表現する場面を多く取り入れる。</li></ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"><li>予習の習慣と知識・理解の定着を図るために、授業内において関わる発問等を増やし、意識と意欲の向上を図る。</li><li>新聞等を活用し、時事的な事柄を授業の中で取り扱う場面を設ける。</li></ul>

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 数学】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	「できるようにになりたい」という意欲は高い。発言に対して消極的な生徒もいることから、考えを交流するハードルを下げる支援が必要である。既習事項の定着が不十分であったり、複数の事項を用いる課題になると混乱してしまったりすることから、一人で学習を進めることが難しく、一人一人に寄り添った支援や生徒同士で支え合う学習活動が有効であると考えられる。
定期考査	観点【数学的な見方・考え方】の問題(主に文章題)の達成率が低い。授業中に扱った問題についてはクリアできることも多いが、式や言葉で説明する問題、授業中に扱っていない問題などについては一層顕著である。

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- \* 授業中の意欲を、家庭学習につなげさせる。
- \* 小学校での学習内容も含め、既習事項の定着を図る。
- \* 既習事項を用いる力、また、複数の既習事項を関連させて考える力を育てる。
- \* 文章を丁寧に読み、粘り強く解釈しようとする姿勢を身に付ける。
- \* 授業内で自分の考えを持ち、表現する場を多く取り入れる。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
既習事項の定着・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業や課題解決の見通しをもたせるために、その時間に必要とする既習事項の復習や類似事項の提示の工夫をする。</li> <li>* 習熟の遅い生徒のグループにおいては、指導計画を工夫してスモールステップで授業を展開する。</li> </ul>
授業展開の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 『 個で取り組む→グループで交流(または、支え合い学習)する→全体で交流・確認する 』という流れを、指導計画を工夫してできるだけ多く取り入れる。 (「自分の考えをもち表現する」場を多く取り入れた授業展開の工夫) 例えば、               <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループで問題の相互〇付けをさせる。</li> <li>2 やり方が複数ある課題については、個で複数のやり方を考えさせ、時間配分を多めに計画してグループで交流させる。</li> <li>3 文章題については、文章の解釈も交流させる。</li> </ol>               → この交流のなかでの生徒相互の気づきが深い学びとなり、そのことが主体的な学びを促すよう工夫する。             </li> </ul>

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 理科】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたり、問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業ではクラスによって落ち着いて取り組めない場合もあるが、おおむねどのクラスも落ち着いて真剣に取り組んでいる。</li><li>・ 実験や観察にも意欲的に取り組む生徒が多いが、スケッチを細部までかいたり、結果を分かりやすく記録したりできる生徒は半数程度である。</li><li>・ 基礎・基本の定着に課題がある。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

学習習慣や基礎学力が定着していないため、それらの既習事項を活用することが十分にできていない。実験結果を適切に処理する力、結果から考察する力、自分の言葉で表現する力が十分でない。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
表現する場の設定	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実験・観察の時間、考察する時間を十分にとる。</li><li>・ 実験・観察後にレポートを作成し、自分の考えを文章などで表現する。</li></ul>

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 音楽】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	多くの生徒が授業における規律やルールを守り、意欲的に取り組んでいる。実技面において、理解力に個人差があるため、簡単な発声をリレー形式で一人一人が自信をもって歌える機会を設け、個に応じた指導を取り入れている。また音楽を楽しみに授業に来ている生徒も多く、スモールステップでペアワークやグループワークといった活動を行い、一人一人の自信につながっている。

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域・分野に応じて、様々な指導を行っているが中学生らしい豊かな声で歌うには個人差がある。例えば歌唱においては、透声で歌うことができず音程は合っている調和の取れた響きに繋がらない。また鑑賞では、曲想のイメージを感じ取って聴くことができるが、それを音楽全般につなげていくことに課題がある。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT 機器の 効果的な活用	・本時のねらいを明確にするために、ICT 機器を効果的に活用し、見通しをもった授業展開をする。
基礎・基本、技能 の向上	・教師の口の開け方の真似をさせる。 ・発声練習を充実させ、綺麗な声で歌えるよう基礎的な技能を身に付けさせ、グループワークを取り入れる。
個に応じた指導	・合唱の練習を通して、核となるリーダーを育て、お互いに学び、高め合う姿勢を作る。 ・音程の確認のため、ワンフレーズテストを用い、苦手な生徒に対して、一人一人細やかな指導を行う。

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 美術】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>与えられた課題に対して素直な気持ちで取り組み、意欲的である。</li><li>基礎的な表現力や理解力に個人差があり、聞く力や考える力を必要とする生徒がいる。</li><li>作業の進み具合の個人差が大きく、授業外での制作を必要とする場合がある。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 学習意欲があっても美術作品としての表現力に結び付かない傾向がある。それぞれの課題について、生徒の表現活動における課題を細かく観察して、適切な指導を行うことが課題である。
- 言葉による理解力の個人差があるため、なるべく多くの生徒が分かりやすい言葉を効果的に使用することや、伝えたい内容を分かりやすく ICT 機器を活用して、視覚的に指導することが課題である。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT の活用	<ul style="list-style-type: none"><li>効果的な表現方法が理解できるように、個に応じた制作のポイントをタブレットの活用で映像と画像を例示し、視覚的に把握させる。</li></ul>
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"><li>前時の振り返りを行い、学習内容のねらいや表現活動の目標を毎時間明確にさせ、自己の課題を生徒一人一人に把握させる。</li></ul>
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>生徒の優れた表現をタイムリーに実物投影機を用いて紹介し、表現力を高める技法を理解させる。</li></ul>

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 保健体育（男子）】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目毎に運動能力の高い生徒と運動が苦手な生徒の二極化が目立つ。個人によって課題が異なるため、習熟度に応じた細かな指導を行っていく必要がある。定期考査においては二極化がみられ、学習の定着や取り組み方に課題がある。
東京都統一 体力テスト	全国平均と比べ、特に握力、持久走、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げに課題がある。筋力、瞬発力、スピード、巧緻性の運動能力を伸ばす運動を継続的にやっていく必要がある。

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

保健体育の授業での運動についての思考判断では、自身の考え整理したり、まとめたり、表現することが苦手とする傾向がある。授業内でのペア学習やグループ学習を通して相手の課題を伝え合い、教え合ったりすることについて課題がある。また、関心意欲態度では、失敗することを恐れて、なかなか挑戦できない場合がある。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
・授業規律の確立	・集団行動の徹底による迅速かつ安全な行動。
・体力・学力の向上	・授業毎に危険場面を想定した安全指導。 ・補教運動でタオル絞りやサーキットトレーニングの実施。 ・各競技の特性に応じた準備運動。からだづくり運動。 ・多様なペア・グループ活動内の教え合いによる言語活動の充実。
・基礎基本、 技能の向上	・個に応じた課題設定の明確化。 ・運動の特性理解と反復練習等による基礎基本、技能の向上の定着。 ・教え合いを通し、グループ内から全体の自己肯定感の増進を図る。
・教材の工夫	・技能差に応じた教材教具の工夫と場の設定。 ・実際の指導場面による適切な教材教具の工夫と場の設定。

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 保健体育（女子）】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	・各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足している場合が見られる。
東京都統一 体力テスト	・体力テストの結果で、全国の平均値を下回った種目(握力 19.2kg、長座体前屈 40.5cm、持久走313秒、立ち幅跳び 154.4cm)の記録の向上が課題である。

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域、単元、種目ごとに、楽しさや喜びを味わうことができている。また積極的に取り組もうとしている。しかし運動体験が不足している傾向が見られるため、それぞれの特性に応じた、きめ細かな指導が課題となる。定期考査においては二極化がみられ、学習の定着や取り組み方に課題がある。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本、 技能の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 運動の特性理解と反復練習等による基礎・基本、技能の向上の定着。</li><li>・ 学習カードを活用し、運動のポイントを明記する。また自分の言葉で考えを表記することや発信し表現ができる場を設ける。</li></ul>
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 技能差に応じた場の設定をする。</li><li>・ ICTを活用し視覚的に自己の動きを確認し、課題解決や分析ができるようにする。</li><li>・ 運動の楽しみ方や練習法、体力の高め方などイラストや写真・動画・学習カードを用いて示す。</li><li>・ 毎回の授業の中で補強運動(動きを持続する能力、巧みな動きを高める運動を中心に行う)を行い、体づくり運動の体力を高める運動と他の単元とを関連させて指導することで、体力や運動能力の向上を図る。</li></ul>

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【技術】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学年の男女の仲は良く、グループ内の意見交換もスムーズである。</li><li>・ 生徒の規範意識は高く、礼儀正しく真面目な授業態度である。</li><li>・ 興味をもち意欲的に取り組む姿勢があり、積極的な発言も多い。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

楽しそうに授業に取り組む姿勢が見られまた発言も多いが、定期考査の結果やワークシートの点検などから、学習内容の定着が低い傾向が少なからず見られる。その場限りの知識ではなく、確かな知識の定着が今後の課題である。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT の活用	<ul style="list-style-type: none"><li>・ タブレットを活用し、作業手順や注意点を分かりやすく説明する。また、大型テレビで作業動画を視聴させるなど、ICT 機器の効果的な利用で、製作経験の不足を補う工夫をする。</li></ul>
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 作業資料の充実を図り、見通しをもって作業ができるようにする。また、時間内で作業が終了するように作品のデザインを改良し、分かりやすい指導の工夫を重ねていく。</li></ul>
助け合う学習	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生徒同士のコミュニケーションがうまくはたらくように、協力して課題解決をする場面を設定する。そのひとつとして、授業内で一人一人が役割分担できるように配慮し、少人数班（4人班）を活用することで、活発な班活動を促す。</li></ul>

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【 家庭 】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>授業における規律やルールを守り、素直に意欲的に取り組んでいる。</li><li>課題に対しては、説明をしっかりと聞き、よく考えることができる生徒と自分だけで取り組むことが難しい生徒との差はある。また、集中力や意欲や技能に課題がある場合が見られる。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

新たな気持ちで意欲的に中学校の学習に取り組んでいるが、考えを深めていくことが難しい傾向が見られ、これが課題である。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本 技能の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>グループの中で考えを出し合ったり、協力して実習をしたりすることで互いの特性を理解し、よいところを取り入れ高め合えるようにする。</li><li>実習計画や実習の記録を丁寧にまとめられるようにする。上手にまとめられているものを参考になるようにできるだけ紹介していく。</li></ul>
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>基礎的、基本的な技術を習得させ、家庭でも応用できる調理実習を行う。</li><li>ICT機器を用いた授業を行い、学習内容の確認と定着を心がける。</li></ul>
主体的・対話的 で深い学びの 工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>既習事項や実生活での体験を踏まえ、よりよく生活するための方法を考え、グループでの意見交換や発表をし合うことで、自分の生活を振り返り、実生活に生かせる力を付けさせる。</li></ul>

# 平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 英語】

## 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

## 2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学校の外国語活動での学びがあり、挨拶や自己紹介など簡単なやりとりが自然に、そして前向きに取り組める生徒が多い。</li><li>・英語の音声や活動に慣れているため、活動などは積極的に参加できる。</li><li>・英語でのコミュニケーションを楽しみ、ペアやグループでの活動、発表活動に意欲的に取り組める。</li></ul>

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・英語の音声や活動に慣れているため、活動などには積極的に参加できるが、書くこと、読むこと、話すことに関しては、理論的に英語を学習する経験が不足しているために、文法を意識して正確な英語で自分の意見を述べることや、正確に英語の文章を書くことなど英語の活用には課題がある。
- ・英語の知識を十分に定着させるためには、口頭や書くことでの徹底した反復作業が必要であるが、生徒間で、その作業量に差がでてきており、その結果が期末テストの結果に反映されていたと感じた。

## 4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
・基礎基本の徹底	授業内で学習事項の内容理解と理解した内容を徹底的に音読し、ターンブラクティスなども取り入れ授業内で定着させる時間を確保する。こうすれば、生徒は知識が定着した状態で、家庭学習に臨むことになり、家庭学習に取り組みやすくなる。
・分かりやすい授業	英語の構造を説明する時間を確保し、理解していない生徒がいれば、適宜、日本語で簡潔な解説を加えるなどする。生徒がペア活動を行っている間の机間指導中に、理解できていない生徒をケアする。